さいたま新都心に一番近い学校

下落合小だより

学校目標　よく考える子　思いやりのある子　明るく元気な子

令和８年１１月号
令和８年１０月３０日
さいたま市立下落合小学校
電　話　８５２－２２８０
ＦＡＸ　８５２－０１８８
E-Mail
shimoochiai-e@saitama-city.ed.jp

「学び」を“生きて働く力”に　～「家庭学習まつり」を開催します～

校　長　小田切　倫子

運動会は、一日遅れの日曜日開催とはなりましたが、雲の隙間を縫うかのように開催することができ、本当によかったです。次なる行事は、音楽会です。“友と響き合うと　力が湧くんだ～♪”“自分の力がみんなの力に♪”今度は、音楽で**「成長」**と**「感謝」**を目指してまいります。子どもたちのつくるハーモニーに、御期待ください！

先月、地域で子ども向けに行われた、社会福祉協議会主催の防災訓練に参加しました。その中で、中央区役所の職員の方が、段ボールベッドを作る訓練を実施してくださり、子どもたちは、「このパーツはあっちだ！」「あのパーツを先につけないと！」など、思考錯誤しながら協力して組み立てていきました。ある子が、「この段ボールベットは、何kgまで大丈夫なんですか？」と尋ねると、職員の方が「２００ｋｇまで大丈夫だよ」と教えてくださいました。そのやり取りを聞いていた別の子が、私に「じゃあ、お相撲さんは大丈夫？」と尋ねてきました。私が、「２００ｋｇを超えないお相撲さんなら大丈夫だね」と答えると、「あっ、そりゃそうだよね」と、とても合点がいった様子。「お相撲さんって、だいたい何ｋｇぐらいなんだろう？」「ぞうさんは、どうかな？」「私だったら、何人分平気かな？」などとつぶやき、想像しながら『２００ｋｇ』に思いを巡らしていました。

こんな問題がありました。**「約１５０㎠の面積のものを、下の１から４までの中から１つ選んで、その番号を書きましょう。」「１．切手１枚の面積　２．年賀はがき１枚の面積　３．算数の教科書１冊の表紙の面積　４．教室１部屋のゆかの面積」**この問題は、平成２０年度の全国学力学習状況調査の問題で、その反応率が話題になった問題です。「１（1.3%）　２（17.8%正答）　３（49.2%）　４（30.6%）」でした。正答率が低かったこともそうなのですが、１５０㎠に**「教室１部屋のゆかの面積」**を選んだ児童の割合が３割を超えていたということも話題となりました。もし、はがきの縦と横の長さを提示して面積を求める問題だったならば、『面積は縦×横』という公式に当てはめて計算し、もっと高い正答率だったのではないかと思います。

問題をもう一つ。今年度の全国学力学習状況調査の問題です。**「１㎠の立方体が３６個あります。３６個すべてを使って、高さが４㎝の直方体を１つ作りました。その直方体の体積は何㎠ですか。」**正解は、１㎠の立方体を３６個すべて使った１つの直方体なのですから、計算するまでもなく３６㎠です。全国（公立）の正答率は40.1%。１４４（３６×４×１をした）と解答した割合が20%、９（３６÷４をした）と解答した割合が14.3%、無回答が15.1%という結果でした。これも、直方体の縦と横と高さを提示して体積を求める問題だったならば、『体積は縦×横×高さ』という公式に当てはめて計算し、もっと高い正答率だったのではないかと思うのです。

話を戻しますと、前述の避難訓練で私と会話をしたあの子のように、数字についてもっと“量感”をもって捉える思考をしていたならば、また、面積や体積は単位となる正方形や立方体のいくつ分として表すという“意味”をしっかり理解していたならば、間違えることはなかったのではないかと考えます。学年が上がり、「割合（%）」や「速さ」などの問題になると、答えがとんでもない数字になっているのに、その間違いに気付かない児童を見かけます。問題文を見て、字面から「これは、割合の問題だな」「今度は、速さの問題だな」と判断し、問題文の数字を公式に当てはめて計算するという“作業”になってしまっているからです。そうならないためには、例えば果汁30%のジュースがあったら、「パックのだいたい３分の１くらいのココまでの分（指をさす）が、果汁っていうことだね」や、車で渋滞にはまったら、「今、だいたい時速３㎞だから、このままだと１時間で３㎞しか進まないってことだよ。３㎞っていうと、家からだいたい○○くらいまでの距離だね。歩くより遅いよ～。」など、学習を生活と結び付けて思考させることです。そうすることで“量感”も高まり、「学び」が生きて働く力となります。そして何よりその方が親子の会話を楽しみながら学びを深め、思考を広げることができますよね。

本校で今年度から取り組んでいる「家庭学習」では、『解き方のあらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分』という理念のもと、実生活と結び付けた学びを表現したり、新しい価値を生み出したりするような取組を推奨しています。この後、「家庭学習まつり」も開催します！お配りした「手引き」には、たくさんのアイディアが載っていますので、お子様の豊かな家庭学習へのサポートを、よろしくお願いいたします。